

小児科学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	2人 (2人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	6人 (4人)
診療助教	4人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	2人
医員	7人
研修医	2人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	5人 (0人)
研究生	10人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	4人
合 計	44人

1-2 教員の異動状況

緒方 勤(教授)	(H23.5.16～現職)
福田 冬季子(准教授)	(H24.9.1～現職)
藤澤 泰子(講師)	(H25.9.1～助教 H28.4.1～現職)
松林 朋子(助教)	(H24.3.1～H29.2.29)
田口 智英(助教)	(H24.6.1～現職)
坂口 公祥(助教)	(H24.8.1～現職)
中島 信一(助教)	(H28.4.1～現職)
關 圭吾(助教)	(H28.1.1～特任助教 H28.10.1～現職)
坂井 聡(診療助教)	(H28.4.1～現職)
平出 拓也(診療助教)	(H27.4.1～現職)
夏目 統(診療助教)	(H28.4.1～現職)
石川 貴充(講師)	(H21.2.1～周産母子センター助教 H28.4.1～周産母子センター現職)
馬場 徹(助教)	(H28.4.1～周産母子センター現職)
近藤 実由樹(診療助教)	(H28.4.1～周産母子センター現職)
飯嶋 重雄(特任准教授)	(H24.4.1～地域周産期医療学寄付講座現職) (副センター長)(H24.8.1～周産母子センター現職)
大石 彰(特任助教)	(H24.5.1～地域周産期医療学講座現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	ヒトインプリンティング疾患発症機序の解明とその臨床応用
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	ヒトインプリンティング遺伝子は、個体・胎盤の成長・発達に必須の役割を演じていることから、その発現変動に起因するヒトインプリンティング疾患は、小児科における重要なテーマとなっている。
	(3) 前年度までの状況	1. 膨大な数のインプリンティング疾患患者の発症原因を解明し、Nature Genetics, PLoS Genetics, J Med Genetなどのトップジャーナルに成果を発表している。 2. 第14染色体父性ダイソミー関連疾患の研究が高く評価され、Kagami-Ogata症候群という疾患名が冠された。
	(4) 当該年度内の進捗	1. Prader-Willi症候群発症と生殖補助医療の関連性について発表した(原著C-1)。 2. 2つのインプリンティング疾患が共存する状態がありうることを明確とした(原著B-2)。 3. Silver-Russell症候群国際コンセンサス会議に出席し、診断・治療ガイドラインをトップジャーナルであるNat Rev Endocrinolに発表した(総説C-4)。 4. Kagami-Ogata症候群の総説を執筆した(総説A-1)。 5. その他、多くの論文を発表した(原著C-10, 14, 23)。 6. エクソーム解析で、世界で2例目となるIGF2変異患者を同定した(Human Mutation, 受理)。
	(5) 翌年度の方針と予想	エクソーム解析、エピゲノム解析などの最新技法を用いた患者解析を継続する。また、インプリンティング関連内分泌疾患の解析を行う。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	先天奇形症候群を招く遺伝的機序の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	先天奇形症候群は、小児科における重要な領域である。この先天奇形症候群の発症機序の解明と新規治療法の開発を目指している。
	(3) 前年度までの状況	1. 膨大な数の患者解析を行い、多数の論文を発表している。 2. 近年では、裂手裂足症の解析を集中的に行い、本邦における創始者効果であるBHLHA9重複を同定した。
	(4) 当該年度内の進捗	1. FGFR1変異が、裂手裂足症とゴナドトロピン分泌不全を伴う疾患単位を招くことを明らかとした(原著A-3)。 2. エクソーム解析による眼白子症姉妹におけるPAX6変異の同定(原著B-2)、croanosynostosis12例におけるFGFR1-3変異の同定(原著A-12)、新規ヌーナン症候群責任遺伝子遺伝子の同定(原著B-1)、ヌーナン症候群成長曲線の作成(原著C-4)などを行った。
	(5) 翌年度の方針と予想	エクソーム解析を主体として、多くの疾患の原因解明に挑む。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名	性分化疾患を招く遺伝的機序の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	性分化疾患は、社会的性の決定を必要とする新生児期の医学的救急疾患であるのみならず、思春期発来障害、性腺腫瘍易発症性、性同一性障害、不妊症などを招く難病である。この性分化疾患発症機序の解明と医療的対応について研究を行っている。
	(3) 前年度までの状況	1. 膨大な数の性分化疾患患者の発症原因を解明し、Nature Genetics, JCEMなどのトップジャーナルに成果を発表している。特に、MAMALD1という遺伝子を同定したことは大きな成果である。 2. 新学術領域研究という大型研究費を獲得し発症機序の解明を進めると共に、10年以上にわたって性分化疾患に関する厚労科研費の研究代表者を務めている。

	(4) 当該年度内の進捗	1. エクソーム解析、網羅的遺伝子解析により、多数の患者における発症原因を解明すると共に、機能解析を行い、論文として発表した(原著A-3、A-10、C-3、7、11、12、15、17、19、21、26)。 2. 副腎腫瘍患者において、腫瘍発症機序の解明とステロイド代謝特性を明らかとした(原著A-2)。 3. 臨床的部分型アンドロゲン受容体異常症患者において、極めてまれなAR遺伝子の深部イントロン変異を見出した(投稿中)。
	(5) 翌年度の方針と予想	エクソーム解析を主体として、多くの疾患の原因解明に挑むと共に、性分化疾患患者の指定難病承認を目指す。
4	(1) 研究・開発等のテーマ名	成長障害を招く遺伝的機序の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	成長障害は、小児科における重要な領域である。この成長障害の発症機序の解明と新規治療法の開発を目指している。
	(3) 前年度までの状況	1. 膨大な数の患者の発症原因を解明し、Nature Geneticstなどのトップジャーナルに成果を発表している。 2. SHOXという遺伝子を同定し、その遺伝子型-表現型解析や新規治療法について提唱している。
	(4) 当該年度内の進捗	1. SHOXに関して、本邦における遺伝子変異頻度の解析(原著C-5)、発現修飾因子の同定(原著C-16)を行った。 2. SHOXに関する総説をトップジャーナルであるEndocr Revに発表した(総説C-2)。
	(5) 翌年度の方針と予想	エクソーム解析を主体として、多くの疾患の原因解明に挑む。
5	(1) 研究・開発等のテーマ名	糖尿病および代謝性ミオパチーの診断と病態解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	本研究は、糖尿病や代謝性ミオパチーの診断および病態解明、バイオマーカーの探索を目的とする。
	(3) 前年度までの状況	酵素活性解析、遺伝子解析を行っている。
	(4) 当該年度内の進捗	酵素活性解析、遺伝子解析を行っている。
	(5) 翌年度の方針と予想	継続。
6	(1) 研究・開発等のテーマ名	糖尿病IIIa型および IIIb型に対する修正アトキンス食事療法の効果
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	糖尿病IIIa型および IIIb型に対する修正アトキンス食事療法の効果を明らかにする。
7	(1) 研究・開発等のテーマ名	白血病細胞の薬剤耐性化機序の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	当科ではこれまでも白血病細胞に対する薬剤感受性試験を実施しており、国内共同研究などで成果を出してきた。薬剤感受性試験により抗悪性腫瘍薬に対する感受性がよい患者と悪い患者を区別することで、個別化医療を進めることが可能と考えられる。また、この背景を解明することで、難治例の治療成績を向上させる礎となる可能性がある。背景の解明には近年進歩してきた遺伝子研究手法を用いていく。
	(3) 前年度までの状況	小児再発急性リンパ性白血病に対する多施設共同研究において、中央検査として白血病細胞の薬剤感受性試験を実施する体制を構築した。これによって再発・難治の小児急性リンパ性白血病症例が発生した際、当教室に検体が送付され、薬剤感受性試験を実施することが可能となった。

	(4) 当該年度内の進捗	検体を収集して、薬剤感受性試験を実施している。実施件数は20件超となった。
	(5) 翌年度の方針と予想	翌年度も研究は継続されるため、引き続き検体の収集と薬剤感受性試験の実施を行う。また、研究開始から2年ほど経過しているため、これまでの中間解析を行う。
	(1) 研究・開発等のテーマ名	乳児アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/多施設共同評価者盲検ランダム化介入並行群間比較試験
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	アトピー性皮膚炎による経皮感作がその後のアレルギー疾患発症のリスクファクターであることが明らかにされてきた。そのため、アトピー性皮膚炎の発症早期から積極的に治療を行うことで、その後の食物アレルギー等が予防できるかどうかを比較する多施設共同評価者ブラインドオープンランダム化並行群間比較試験。
	(3) 前年度までの状況	研究代表機関の国立成育医療研究センターで倫理委員会承認取得。浜松医大での倫理委員会承認取得。EDC構築終了。
8	(4) 当該年度内の進捗	UMIN登録予定。2016年6月に多施設共同研究第1回会議。その後登録開始予定。
	(5) 翌年度の方針と予想	2019年3月に最終的なデータ登録完了見込み。
	(1) 研究・開発等のテーマ名	食物摂取頻度が食物アレルギーの耐性獲得に与える影響 ランダム化比較試験
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	食物アレルギーの治療として行う経口免疫療法に関し、従来論文で報告されている方法は毎日アレルゲンを摂取する方法の有効性が証明されつつある。しかし、週2回の摂取でも食物アレルギーが寛解すると数報報告されている。そこで、アレルゲンの経口摂取頻度を週2回摂取と週7回摂取とで経口免疫療法の有効性を比較する評価者ブラインド、オープンランダム化並行群間比較試験を行うこととした。
	(3) 前年度までの状況	浜松医大での倫理委員会承認取得。EDC構築、UMIN登録終了。
9	(4) 当該年度内の進捗	2016年4月より登録開始。
	(5) 翌年度の方針と予想	2018年4月まで登録を継続し、2019年3月に最終的なデータ登録完了見込み。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	36編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	149.533
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	3編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3) 総説数(うち和文のもの)	4編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	19.415
(4) 著書数(うち和文のもの)	10編 (10編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Ishigaki H, Hiraide T, Miyagi Y, Havashi T, Matsubayashi T, Shimoda A, Kusunoki S, Fukuda T. Childhood-Onset Multifocal Motor Neuropathy With Immunoglobulin M Antibodies to Gangliosides GM1 and GM2: A Case Report and Review of the Literature. <i>Pediatr Neurol.</i> 2016;62:51-7.	1.866
2.	Iwashima S, Uchiyama H, Ishikawa T, Takigiku K, Takahashi K, Toyono M, Inoue N, Nii M. Measurement of Aortic Valve Coaptation and Effective Height Using Echocardiography in Patients with Ventricular Septal Defects and Aortic Valve Prolapse. <i>Pediatr Cardiol.</i> 38(3), 608-616, 2017.	1.452
3.	Iwashima S, Ishikawa T, Itoh H. Reproductive technologies and the risk of congenital heart defects. <i>Hum Fertil.</i> 20(1), 14-21, 2017.	0.988
4.	Iwashima S, Ishikawa T. Quantitative, Noninvasive Assessment of Patent Ductus Arteriosus Shunt Flow by Measuring Proximal Isovelocity Surface Area on Color Doppler Mapping in Very Low-Birth-Weight Infants. <i>Am J Perinatol.</i> 33(10), 930-938, 2016.	1.677
5.	Takahashi H, Inoue J, Sakaguchi K, Takagi M, Mizutani S, Inazawa J. Autophagy is required for cell survival under L-asparaginase-induced metabolic stress in acute lymphoblastic leukemia cells. <i>Oncogene.</i> 2017	7.932
6.	Fujisawa Y, Fukami M, Hasegawa T, Uematsu A, Muroya K, Ogata T. Long-term clinical course in three patients with MAMLD1 mutations. <i>Endocr J.</i> 30;63(9):835-839.	1.997
7.	Asahina M, Endoh Y, Matsubayashi T, Hirano K, Fukuda T, Ogata T*. Genomewide array comparative genomic hybridization in 55 Japanese normokaryotypic patients with non-syndromic intellectual disability. <i>J Pediatr Neurol Disord</i> 2 (1): 108, 2016	0.000
8.	Ohishi A, Nishimura G, Kato F, Ono H, Maruwaka K, Ago M, Suzumura H, Hirose E, Uchida Y, Fukami M, Ogata T*. Mutation analysis of FGFR1-3 in 11 Japanese patients with syndromic craniosynostoses. <i>Am J Med Genet A</i> 173 (1): 157-162, 2017	2.082
9.	Osamu Natsume, Shigenori Kabashima, Junko Nakazato, Kiwako Yamamoto-Hanada, Masami Narita, Mai Kondo, Mayako Saito, Ai Kishino, Tetsuya Takimoto, Eisuke Inoue, Julian Tang, Hiroshi Kido, Gary W.K. Wong, Kenji Matsumoto, Hirohisa Saito, and Yukihiko Ohya: Two-step Egg Introduction for preventing egg allergy in High-risk Infants with eczema (PETIT study): a double-blind, placebo-controlled, parallel-group randomised clinical trial, <i>Lancet</i> , 389, 276-286, 2017.	44.002

論文数(A)小計 9 うち和文 0 IF小計 61.996**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Yokoi T, Nishina S, Fukami M, Ogata T, Hosono K, Hotta Y, Azuma N*. Genotype-phenotype correlation of PAX6 gene mutations in aniridia. <i>Hum Genome Variat</i> 3: 15052, 2016	0.000
2.	Sano S, Nagasaki K, Kikuchi T, Nakabayashi K, Hata K, Fukami M, Kagami M, Ogata T*: Beckwith-Wiedemann syndrome and pseudohypoparathyroidism type 1b in a patient with multilocus methylation defects: a female-dominant phenomenon? <i>J Hum Genet</i> 61 (8): 765-769, 2016	2.487

論文数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 2.487**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Matsubara K, Murakami N, Fukami M, Kagami M, Nagai T, Ogata T*: Risk assessment of medically assisted reproduction and advanced maternal ages in the development of Prader-Willi syndrome due to UPD(15)mat. <i>Clin Genet</i> 89 (5): 614-619, 2016	3.895
2.	Shima H, Tanaka T, Kamimaki T, Dateki S, Muroya K, Horikawa R, Kanno J, Adachi M, Naiki Y, Tanaka H, Mabe H, Yagasaki H, Kure S, Matsubara Y, Tajima T, Kashimada K, Ishii T, Asakura Y, Fujiwara I, Soneda S, Nagasaki K, Hamajima T, Kanzaki S, Jinno T, Ogata T, Fukami M; Japanese SHOX study group: Systematic molecular analyses of SHOX in Japanese patients with idiopathic short stature and Leri-Weill dyschondrosteosis. <i>J Hum Genet</i> 61 (2): 585-591, 2016	2.487
3.	Okuno M, Yorifuji T, Kagami M, Ayabe T, Urakami T, Kawamura T, Kikuchi N, Yokota I, Toru Kikuchi, Amemiya S, Suzuki J, Ogata T, Sugihara S, Fukami M* and The Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes (JSGIT): Chromosome 6q24 methylation defects are uncommon in childhood-onset non-autoimmune diabetes mellitus patients born appropriate-for-gestational age. <i>Clin Pediatr Endocrinol</i> 25 (3): 99-102, 2016	0.000
4.	Saito K, Matsuzaki T, Iwasa T, Miyado M, Saito H, Kubota T, Irahara M, Ogata T, Fukami M*: Blood allopregnanolone levels in women with polycystic ovary syndrome. <i>Clin Endocrinol</i> 85: 151-152, 2016	3.487
5.	Luk H-M, Lo F-M I, Sano S, Matsubara K, Nakamura A, Ogata T*, Kagami M*: Silver-Russell syndrome in a patient with somatic mosaicism for upd(11)mat identified by buccal cell analysis. <i>Am J Med Genet A</i> 170 (7): 1938-1941, 2016	2.082
6.	Miyamichi D, Asahina M, Nakajima J, Sato M, Hosono K, Nomura T, Negishi T, Miyake N, Hotta Y, Ogata T, Matsumoto N*: Novel HPS6 mutations identified by whole-exome sequencing in two Japanese sisters with suspected ocular albinism. <i>J Hum Genet</i> 61 (9): 839-842, 2016	2.487

7.	Eggermann T, Brioude F, Russo S, Lombardi MP, Blik J, Maher ER, Larizza L, Prawitt D, Netchine I, Gonzales M, Grønskov K, Tümer Z, Monk D, Mannens M, Chrzanoswska K, Walasek MK, Begemann M, Soellner L, Eggermann K, Tenorio J, Nevado J, Moore GE, Mackay DJ, Temple K, Gillissen-Kaesbach G, <u>Ogata T</u> , Weksberg R, Algar E, Lapunzina P: Prenatal molecular testing for Beckwith-Wiedemann and Silver-Russell syndromes: a challenge for molecularanalysis and genetic counseling. <i>Eur J Hum Genet</i> 24 (6): 784-793, 2016	4.580
8.	Koyama Y, Homma K, Fukami M, Miwa M, Ikeda K, <u>Ogata T</u> , Murata M, Hasegawa T*: Classic and non-classic 21-hydroxylase deficiency can be discriminated from P450 oxidoreductase deficiency in Japanese infants by urinary steroid metabolites. <i>Clin Pediatr Endocrinol</i> 25 (2): 37-44, 2016	0.000
9.	Miyoshi Y*, Yorifuji T, Horikawa R, Takahashi I, Nagasaki K, Ishiguro H, Fujiwara I, Ito J, Oba M, Kawamoto H, Fujisaki H, Kato M, Shimizu C, Kato T, Matsumoto K, Sago H, Takimoto T, Okada H, Suzuki N, Yokoya S, <u>Ogata T</u> , Ozono K: Gonadal function, fertility, and reproductive medicine in childhood and adolescent cancer patients: a national survey of Japanese pediatric endocrinologists. <i>Clin Pediatr Endocrinol</i> 25 (2): 45-57, 2016	0.000
10.	Moritani M*, Yokota I, Horikawa R, Urakami T, Nishii A, Kawamura T, Kikuchi N, Kikuchi T, <u>Ogata T</u> , Sugihara S, Amemiya S; Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes (JSGIT): Identification of monogenic gene mutations in Japanese subjects diagnosed with type 1B diabetes between >5 and 15.1 years of age. <i>J Pediatr Endocrinol Metab</i> 229 (9): 1047-1054, 2016	0.912
11.	Nakamura A, Hamaguchi E, Horikawa R, Nishimura Y, Matsubara K, Sano S, Nagasaki K, Matsubara Y, Umezawa A, Tajima T, <u>Ogata T</u> , Kagami M, Okamura K, Fukami M*: Complex genomic rearrangement within the GNAS region associated with familial pseudohypoparathyroidism Ttype 1b. <i>J Clin Endocrinol Metab</i> 101 (7): 2623-2627, 2016	5.531
12.	Naiki Y*, Miyado M, Horikawa R, Katsumata N, Onodera M, Pang S, <u>Ogata T</u> , Fukami M: Extra-Adrenal Induction of Cyp21a1 Ameliorates Systemic Steroid Metabolism in a Mouse Model of Congenital Adrenal Hyperplasia. <i>Endocr J</i> 63 (10): 897-904, 2016	1.895
13.	Montalbano A Juergensen A, Roeth R, Weiss B, Fukami M, Fricke-Otto S, Binder G, <u>Ogata T</u> , Decker E, Nuernberg G, Hassel 2, Rappold GA*: Retinoic acid catabolizing enzyme CYP26C1 is a genetic modifier in SHOX deficiency. <i>EMBO Mol Med</i> 8 (12): 1455-1469, 2016	9.547
14.	Shima H, Yatsuga S, Nakamura A, Sano S, Sasaki T, Katsumata N, Suzuki E, Hata K, Nakabayashi K, Momozawa Y, Kubo M, Okamura K, Kure S, Matsubara Y, <u>Ogata T</u> , Narumi S, Fukami M*: NROB1 frameshift mutation in a boy with idiopathic central precocious puberty. <i>Sex Dev</i> 10 (4): 205-209, 2016	2.164
15.	Ayabe T, Fukami M, <u>Ogata T</u> , Kawamura T, Urakami T, Kikuchi N, Yokota I, Ihara K, Takemoto K, Mukai T, Nishii A, Kikuchi T, Mori T, Shimura N, Sasaki G, Kizu R, Takubo N, Soneda S, Fujisawa T, Takaya R, Kizaki Z, Kanzaki S, Hanaki K, Matsuura N, Kasahara Y, Kosaka K, Takahashi T, Minamitani K, Matsuo S, Mochizuki H, Kobayashi K, Koike A, Horikawa R, Teno S, Tsubouchi K, Mochizuki T, Igarashi Y, Amemiya S, Sugihara S; Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes (JSGIT). The Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes (JSGIT): Variants associated with autoimmune type 1 diabetes in Japanese children: implications for age-specific effects of cis-regulatory haplotypes at 17q12-q21. <i>Diabet Med</i> 33 (12): 1717-1722, 2016	3.152
16.	Miyado M, Inui M, Igarashi M, Katoh-Fukui Y, Takasawa K, Hakoda A, Kanno J, Kashimada K, Miyado K, Tamano M, <u>Ogata T</u> , Takada S, Fukami M*: The p.R92W variant of NR5A1/Nr5a1 induces testicular development of 46,XX gonads in humans, but not in mice: Phenotypic comparison of human patients and mutation-induced mice. <i>Biol Sex Differ</i> 2016 Nov 8;7:56. eCollection 2016	3.237
17.	Fukami M, Suzuki E, Shima H, Toki M, Hanew K, Matsubara K, Kurahashi H, Narumi S, <u>Ogata T</u> , Kamimaki T: Complex X-chromosomal rearrangements in two women with ovarian dysfunction: implications for chromothripsis/chromoanasythesis-dependent and -independent origins of complex genomic alterations. <i>Cytogenet Genome Res</i> 150 (2): 86-92, 2016	1.638
18.	Igarashi M, Takasawa K, Hakoda A, Kanno J, Takada S, Miyado M, Baba T, Morohashi KI, Tajima T, Hata K, Nakabayashi K, Matsubara Y, Sekido R, <u>Ogata T</u> , Kashimada K, Fukami M*: Identical NR5A1 missense mutations in two unrelated 46,XX individuals with testicular tissues. <i>Hum Mutat</i> 38 (1): 39-42, 2017	5.089
19.	Ihara K, Fukano C, Ayabe T, Fukami M, <u>Ogata T</u> , Kawamura T, Urakami T, Kikuchi N, Yokota I, Takemoto K, Mukai T, Nishii A, Kikuchi T, Mori T, Shimura N, Sasaki G, Kizu R, Takubo N, Soneda S, Fujisawa T, Takaya R, Kizaki Z, Kanzaki S, Hanaki K, Matsuura N, Kasahara Y, Kosaka K, Takahashi T, Minamitani K, Matsuo S, Mochizuki H, Kobayashi K, Koike A, Horikawa R, Teno S, Tsubouchi K, Mochizuki T, Igarashi Y, Amemiya S, Sugihara S; Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes (JSGIT): FUT2 nonsecretor status links type 1 diabetes susceptibility in Japanese children. <i>Diabet Med</i> 34 (4): 586-589, 2017	3.152
20.	Okuno M, Kasahara Y, Onodera M, Takubo N, Okajima M, Suga S, Watanabe N, Suzuki J, Ayabe T, Urakami T, Kawamura T, Kikuchi N, Yokota I, Kikuchi T, Amemiya S, Nakabayashi K, Hayashi KK, Hata KK, Matsubara Y, <u>Ogata T</u> , Fukami M*, Sugihara S: Nucleotide substitutions in CD101, the human homolog of a diabetes susceptibility gene in non-obese diabetic mouse, in patients with type 1 diabetes. <i>J Diabetes Investig</i> 2016 Oct 19. doi: 10.1111/jdi.12586	2.294
21.	Matsuoka T, Miwa Y, Tajika M, Sawada M, Fujimaki K, Soga T, Tomita H, Uemura S, Nishino I, <u>Fukuda T</u> , Sugie H, Kosuga M, Okuyama T, Umeda Y. Divergent clinical outcomes of alpha-glucosidase enzyme replacement therapy in two siblings with infantile-onset Pompe disease treated in the symptomatic or pre-symptomatic state. <i>Mol Genet Metab Rep.</i> 18;9:98-105.2016	0.400
22.	Natsume J, Hamano SI, Iyoda K, Kanemura H, Kubota M, Mimaki M, Nijima S, Tanabe T, Yoshinaga H, Kojimahara N, Komaki H, Sugai K, <u>Fukuda T</u> , Maegaki Y, Sugie H. New guidelines for management of febrile seizures in Japan. <i>Brain Dev.</i> 2017 ;39:2-9.	1.785

23.	Suzuki, K., Okuno, Y., Kawashima, N., Muramatsu, H., Okuno, T., Wang, X., Kataoka, S., Sekiya, Y., Hamada, M., Murakami, N., Kojima, D., Narita, K., Narita, A., Sakaguchi, H., Sakaguchi, K., Yoshida, N., Nishio, N., Hama, A., Takahashi, Y., Kudo, K., Kato, K. and Kojima, S. MEF2D-BCL9 Fusion Gene Is Associated With High-Risk Acute B-Cell Precursor Lymphoblastic Leukemia in Adolescents. Journal of clinical oncology. 34(28):3451-3459.2016	20.982
24.	平野 恵子, 福田 冬季子 頭部MRI arterial spin labeling(ASL)画像で脳血流分布の異常を認めた有熱時けいれん重積の3例 脳と発達(0029-0831)48巻3号 213-217, 2016	0.000
25.	Kobayashi T, Fuse S, Sakamoto N, Mikami M, Ogawa S, Hamaoka K, Arakaki Y, Nakamura T, Nagasawa H, Kato T, Jibiki T, Iwashima S, Yamakawa M, Ohkubo T, Shimoyama, Aso K, Sato S, Saji T; Z Score Project Investigators (Ishikawa T, et al). A New Z Score Curve of the Coronary Arterial Internal Diameter Using the Lambda-Mu-Sigma Method in a Pediatric Population. J Am Soc Echocardiogr. 29(8), 794-801, 2016.	4.254

論文数(C)小計 25 うち和文 0 IF小計 85.050

(2-1)論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 0 IF小計 0.000

(2-2)レター

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	福田 冬季子, 知っておきたい遺伝性疾患 糖原病 小児内科 48; 893-896, 2016	0.000
2.	福田 冬季子, 糖原病 小児内科 48; 1415-1419, 2016.	0.000
3.	福田 冬季子, 非福山型先天性筋ジストロフィー 小児内科 48; 1950-1955, 2016.	0.000

レター数小計 3 IF小計 0.000

(3)総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Ogata T*, Kagami M: Kagami-Ogata syndrome: a clinically recognizable upd(14)pat and related disorder affecting the chromosome 14q32.2 imprinted region. J Hum Genet 61 (2): 87-94, 2016	2.487

総説数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.487

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	藤澤泰子, 緒方勤: アンドロゲン産生副腎皮質がんの発症機序. 内分泌・糖尿病・代謝内科44 (1): 57-63, 2017	0.000

総説数(B)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Fukami M*, Seki A, Ogata T: SHOX haploinsufficiency as a cause of syndromic and non-syndromic short stature. Mol Syndromol 7 (1): 3-11, 2016	2.030
2.	Marchini A, Ogata T, Rappold GA*: A track record on SHOX: from basic research to complex models and therapy. Endocr Rev 37 (4): 417-448, 2016	14.898

総説数(C)小計 2 うち和文 0 IF小計 16.928

(4)著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	緒方勤: 内分泌疾患のエビジェネティクス・インプリンティング. 日本小児内分泌学会(編)横谷進, 緒方勤, 大園恵一(監修)小児内分泌学. 診断と治療社 pp 28-33, 2016	
2.	緒方勤: 視床下部・下垂体・性系腺の発生・分化. 日本小児内分泌学会(編)横谷進, 緒方勤, 大園恵一(監修)小児内分泌学. 診断と治療社 pp 277-280, 2016	
3.	緒方勤: 性の分化機構. 日本小児内分泌学会(編), 横谷進, 緒方勤, 大園恵一(監修)小児内分泌学. 診断と治療社 pp 321-326, 2016	
4.	緒方勤: 思春期早発症. 福井次矢, 高木誠, 小室一誠(総監修)2017今日の治療指針 pp 1401, 2016	
5.	緒方勤: 先天性内分泌疾患とゲノム構造異常. 第21回小児内分泌専門セミナー講義レジュメ集. 日本小児内分泌学会 pp 13-21, 2016	

6.	福田 冬季子:筋疾患 内分泌性ミオパチー 診断と治療社 小児内科, 48巻増刊 536-539, 2016	
7.	福田 冬季子:糖原病 肝型糖原病を中心に 診断と治療社小児内科 48巻増刊 192-197, 2016.11	
8.	福田 冬季子:ポンペ病診療ガイドライン作成委員会 ポンペ病診療ガイドライン 診断と治療社 1-57,2017	

著書数(A)小計 8 うち和文 8

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	中島信一、緒方勤:アンドロゲン不応症(精巢性女性化症). 吉川史隆、倉智智久、平松祐司(編)産婦人科疾患最新の治療2016-2018. 南江堂 pp 347-348, 2016	
2.	加藤美弥子、濱島隆、緒方勤:IMAGe症候群. 見て学ぶ小児内分泌疾患 6: 3-4, 2016	

著書数(B)小計 2 うち和文 2

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	7 件	1,712 万円
(2)厚生労働科学研究費	3 件	550 万円
(3)日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	7 件	919 万円
(4)科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5)他政府機関による研究助成	4 件	608 万円
(6)財団助成金	4 件	449 万円
(7)受託研究または共同研究	0 件	0 万円
(8)奨学寄附金	11 件	831 万円

(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	福田冬季子(代表), 基盤研究(C), ポンペ病のエキソソーム機能の解明とmiRNA発現解析によるバイオマーカーの同定, 平成25年度~平成28年度	310万円
2.	藤澤泰子(代表), 基盤研究(C), 母乳栄養による肥満発症抑制機序:脂肪細胞と腸管内分泌細胞への複合作用の解明, 平成26年度~平成29年度	360万円
3.	夏目統(代表), 若手研究(B), 乳児期の食物特異的IgE,IgG4IgAのクラススイッチと食物アレルギーの発症, 平成26年度~平成29年度	218万円
4.	山口理恵(代表), 基盤研究(C), MolecularBasisofFamilialGlucocorticoidDeficiency, 平成26年度~平成28年度	80万円
5.	坂口公祥(代表), 若手研究(B), マイクロアレイによる網羅的解析を用いた白血病細胞の薬剤感受性の解明, 平成27年度~平成29年度	90万円
6.	加藤美弥子(代表), 若手研究(B), シルバーラッセル症候群発症機序の解明と(エピ)遺伝子型—表現型解析, 平成27年度~平成29年度	160万円
7.	石川貴充(代表), 基盤研究(C), 川崎病発症後における早期動脈硬化リスク因子の探索, 平成27年度~平成29年度	494万円

(2)厚生労働科学研究費

1.	緒方勤(代表), 性分化・性成熟疾患群における診療ガイドラインの作成と普及, 平成27年度~平成29年度	400万円
----	--	-------

2.	緒方勤(分担), 国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討, 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)慶應義塾大学教授小崎健次郎	100万円
3.	福田冬季子(分担), ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究, 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)東京慈恵会医科大学名誉教授衛藤義勝	50万円

(3) 日本医療研究開発機構 (AMED) による研究助成

1.	緒方勤(分担), 細胞内シグナル伝達異常による先天奇形症候群の病態解明と治療法開発の研究, 平成26年度～平成30年度,(研究代表者)東北大学 准教授 青木洋子	50万円
2.	福田冬季子(分担), 新生児ダンデムマスクリーニング対象疾患の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究, 平成26年度～平成29年度,(研究代表者)岐阜大学 教授 深尾敏幸	70万円
3.	夏目統(分担), 浜松医科大学附属病院における乳幼児アトピー性皮膚炎の診断・アウトカム評価(アレルギーマーチを阻止する乳児アトピー性皮膚炎早期介入研究), 平成28年度～平成30年度,(研究代表者)国立成育医療研究センター 副所長 斎藤博久	180万円
4.	緒方勤(分担), 性分化異常、小児内分泌疾患、先天奇形症候群に関する情報収集と解析(小児科・産科領域疾患の大規模遺伝子解析ネットワークとエピゲノム解析拠点整備), 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)国立成育医療研究センター 所長 松原洋一	192万円
5.	緒方勤(分担), ART出生児におけるインプリンティング異常などの遺伝的安全性の検討(生殖補助医療の技術の標準化と出生児の安全性に関する研究), 平成28年度～平成30年度,(研究代表者)徳島大学 教授 苜原稔	77万円
6.	緒方勤(分担), 検体収集、遺伝子診断(インプリンティング異常症および合併症発症メカニズムの解明:患者由来iPS細胞を用いた研究), 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)国立成育医療研究センター 室長 鏡雅代	250万円
7.	緒方勤(分担), SRS,TS14,KOS14症例の集積、遺伝子診断症例の臨床像および治療法の情報集積、臨床像・治療法の解析、診療ガイドライン作成(遺伝子診断に基づいたインプリンティング異常症3疾患の臨床像および治療法の評価に関する研究), 平成27年度～平成29年度,(研究代表者)国立成育医療研究センター 室長 鏡雅代	100万円

(5) 他政府機関による研究助成

1.	緒方勤, 国立研究開発法人国立成育医療研究センター, SGA性低身長に対する遺伝子診断システムの開発と遺伝学的原因に基づく身長予後および治療法の検討, 平成28年度	250万円
2.	緒方勤, 国立研究開発法人国立成育医療研究センター(国立研究開発法人日本医療研究開発機構), 原因不明遺伝子関連疾患の全国横断的症例収集・バンキングと網羅的解析, 平成28年度	315万円
3.	緒方勤, 国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事長, 成育希少疾患の症例登録と遺伝学的診断に関する研究, 平成28年度	35万円
4.	坂口公祥, 国立大学法人三重大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター, International Study for Treatment of Standard Risk Childhood Relapsed ALL 2010(IntReALLSR2010)第一再発小児急性リンパ性白血病標準リスク群に対する第III相国際共同臨床研究, 平成26年度～平成31年度	8万円

(6) 財団助成金

1.	大高幸之助, (公財)成長科学協会, FGFR1遺伝子転写活性化領域の同定	50万円
2.	藤澤泰子, (公財)母子健康協会, 胎生期の低栄養環境による精巣機能障害に関する研究	100万円
3.	藤澤泰子, (一社)日本小児内分泌学会, 胎生期の低栄養環境による精巣機能障害に関する研究	200万円
4.	夏目統, 日本小児アレルギー学会, 食物アレルギー児に対する少量維持経口免疫療法における連日摂取と週2回摂取の有効性の比較-評価者盲検、オープンランダム化並行群間比較試験-	99万円

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	6 件
2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
3) 学会座長回数	2 件	7 件
4) 学会開催回数	0 件	1 件
5) 学会役員等回数	1 件	20 件
6) 一般演題発表数	27 件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等での座長

1.	緒方 勤: 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会2016(平成28年)11月16日-20日 千代田(東京)
----	---

2. Fujisawa Y, Naiki Y. The 9th biannual meeting of Asia Pacific Pediatric Endocrine Society (APPES) Tokyo November 17-20

5) 役職についている国際学会名とその役割

1. 緒方 勤: International Society of Pediatric Endocrinology, 日本代表

6) 一般発表

6-1) 口頭発表

1. Keiko Matsubara, Nobuyuki Murakami, Maki Fukami, Masayo Kagami, Toshiro Nagai, Tsutomu Ogata. Risk assessment of medically assisted reproduction and advanced maternal ages in the development of Prader-Willi syndrome due to UPD(15)mat. ICHG2016 The 13th International Congress of Human Genetics. 3-7 April 2016 (Kyoto)
2. Masayo Kagami, Keisuke Nagasaki, Rika Kosaki, Horikawa Reiko, Yasuhiro Naiki, Shinji Saitoh, Toshihiro Tajima, Akie Nakamura, Keiko Matsubara, Maki Fukami, Tsutomu Ogata. Comprehensive clinical studies in 30 patients molecularly diagnosed with Temple syndrome. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
3. Taichi Kitaoka, Toshihiro Tajima, Keisuke Nagasaki, Toru Kikuchi, Katsusuke Yamamoto, Toshimi Michigami, Satoshi Okada, Ikuma Fujiwara, Masayuki Kokaji, Hiroshi Mochizuki, Tsutomu Ogata, Koji. Clinical Trial of Asfotase Alfa in Patients with Hypophosphatasia (HPP) in Japan. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
4. Kohnosuke Ohtaka, Yasuko Fujisawa, Rie Yamaguchi, Fumiko Kato, Hideaki Yagasaki, Tatsuya Miyoshi, Yukihiko Hasegawa, Tomonobu Hasegawa, Hideaki Miyoshi, Fumio Takada, Momori Katsumi, Maki. FGFR1 mutations in four patients with congenital hypogonadotropic hypogonadism and split-hand/foot malformation: implications for the FGFR1 proximal promoter region. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
5. Yasuko Fujisawa, Rie Yoshida, Francesco Massart, Naoyuki Kamatani, Maki Fukami, Tsutomu Ogata. Further evidence for the involvement of the specific ESR1 haplotype in the susceptibility to estrogenic endocrine disruptors. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
6. Akie Nakamura, Takanobu Inoue, Keiko Matsubara, Shinichiro Sano, Yasuhiro Naiki, Shuichi Yatsuga, Junko Nishioka, Keisuke Nagasaki, Koji Muroya, Sachiko Kitanaka, Toshihiro Tajima, Reiko Horikawa, Tsutomu Ogata, Maki Fukami, Masayo Kagami. DNA methylation defects in short children born small for gestational age. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
7. 細川 悠紀、榊原 杏美、橋本 有紀子、川北 理恵、依藤 亨、増江 道哉、西堀 弘記、長谷川 行洋、有阪 治、横谷 進、大藪 恵一、緒方 勤. 多施設共同臨床試験: 先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注射療法 (SCORCHスタディ). 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
8. 鈴木 江莉奈、泉 陽子、鳥居 知宏、五十嵐 麻希、宮戸 真美、勝見 桃理、鳴海 覚志、山内 淳司、藤澤 泰子、緒方 勤、深見 真紀. 内分泌疾患の原因となる新たなGタンパク共役型受容体機能亢進メカニズムの解明. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
9. 加藤 芙弥子、大石 彰、西村 玄、小野 裕之、圓若 かおり、深見 真紀、緒方 勤. 頭蓋骨早期癒合症11例におけるFGFR1-3変異解析. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
10. 三善 陽子、依藤 亨、石黒 寛之、伊藤 純子、高橋 郁子、長崎 啓祐、藤原 幾磨、堀川 玲子、緒方 勤、大藪 恵一. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)

6-2) ポスター発表

1. Kazuki Yamazawa, Keiko Matsubara. Exploration of hydroxymethylation in Kagami-Ogata syndrome caused by hypermethylation of imprinting control regions. ICHG2016 The 13th International Congress of Human Genetics. 3-7 April 2016 (Kyoto)
2. Shinichiro Sano, Keiko Matsubara. Multilocus methylation defects in a patient presenting with both clinical phenotype of pseudohypoparathyroidism type 1b and Beckwith-Wiedemann syndrome. ICHG2016 The 13th International Congress of Human Genetics. 3-7 April 2016 (Kyoto)
3. Shigeru Nakamura, Mami Miyado, Kazuki Saito, Momori Katsumi, Yoshitomo Kobori, Yoko Tanaka, Hiromichi Ishikawa, Atsumi Yoshida, Hiroshi Okada, Hideo Nakai, Tsutomu Ogata, Maki Fukami. Monogenic mutations in patients with non-obstructive azoospermia and oligozoospermia. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
4. Kazuki Saito, Toshiya Matsuzaki, Mami Miyado, Momori Katsumi, Shigeru Nakamura, Minoru Irahara, Tsutomu Ogata, Maki Fukami. Androgen measurement in women with polycystic ovary syndrome: Comparison between immunoassays and liquid chromatography-tandem mass spectrometry. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
5. Atsushi Hattori1, Yuko Katoh-Fukui1, Keiko Matsubara1, Maki Igarashi1, Erina Suzuki, Akie Nakamura, Hiroyuki Tanaka, Keisuke Nagasaki, Koji Muroya, Reiko Horikawa, Shinobu Ida, Toshiaki Tanaka, Tsutomu Kamimaki, Tsutomu Ogata, Maki Fukami. Sequence variations in genes of the GH-IGF-1 axis in children with idiopathic short stature. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)

6.	Tsuyoshi Isojima, Satoru Sakazume, Tomonobu Hasegawa, Tsutomu Ogata, Toshio Nakanishi, Toshiro Nagai, Susumu Yokoya. Practical growth charts for Japanese children with Noonan syndrome. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
7.	Maki Igarashi, Kei Takasawa, Akiko Hakoda, Junko Kanno, Shuji Takada, Mami Miyado, Toshihiro Tajima, Ryohei Sekido, Tsutomu Ogata, Kenichi Kashimada, Maki Fukami. Identical NR5A1 Missense Mutations in Two Unrelated 46,XX Individuals with Testicular Tissues. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
8.	Yasuko Fujisawa, Maki Fukami, Tomonobu Hasegawa, Ayumi Uematsu, Koji Muroya, Tsutomu Ogata. Long-term clinical course in three patients with MAMLD1 mutations. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
9.	Hiroyuki Ono, Chikahiko Numakura, Seiji Tsutsumi, Keiko Homma, Tomonobu Hasegawa, Fumiko Kato, Tsutomu Ogata. Characterization of androgen production in a genetic male infant with prenatally diagnosed POR deficiency. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
10.	Mami Miyado, Kaoru Yoshida, Kenji Miyado, Momori Katsumi, Kazuki Saito, Shigeru Nakamura, Tsutomu Ogata, Maki Fukami. Genetic knockout of Mamld1 reduces testicular size but permits normal fertility in adult male mice. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
11.	Hirohito Shima, Shuichi Yatsuga, Akie Nakamura, Shinichiro Sano, Takako Sasaki, Noriyuki Katsumata, Erina Suzuki, Tsutomu Ogata, Satoshi Narumi, Maki Fukami. NR0B1 Frameshift Mutation in a Boy with Precocious Puberty and Normal Adrenal Function. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
12.	Kenichi Kinjo, Yasuko Fujisawa, Yohei Masunaga, Hiroyuki Ono, Kounosuke Ohtaka, Shinichi Nakashima, Hirokazu Saegusa, Tsutomu Ogata. Effect of intramuscular testosterone enanthate treatment on penile length in boys with micropenis. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
13.	Shinichiro Sano, Keiko Matsubara, Keisuke Nagasaki, Toru Kikuchi, Kazuhiko Nakabayashi, Kenichiro Hata, Maki Fukami, Masayo Kagami, Tsutomu Ogata. Beckwith-Wiedemann syndrome and pseudohypoparathyroidism type 1b in a patient with multilocus imprinting disturbance. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
14.	Misako Okuno, Yoshihito Kasahara, Noriyuki Takubo, Michiko Okajima, Shigeru Suga, Junichi Suzuki, Tadayuki Ayabe, Tatsuhiko Urakami, Tomoyuki Kawamura, Nobuyuki Kikuchi, Ichiro Yokota, Toru Kikuchi, Shin Amemiya, Tsutomu Ogata, Maki Fukami. Nucleotide substitutions in CD101, the human homolog of diabetes mellitus susceptibility gene in non-obese diabetic mouse, in patients with type 1 diabetes mellitus. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
15.	Shinichi Nakashima, Satoshi Okada, Fumiko Kato, Yamoto Kaori, Tsutomu Ogata. WAGR syndrome due to 46,XY,del(11)(p11.12p14.3) in a patient born to a mother with 46,XX,ins(13;11)(q21.2;p11.12p14.3). 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
16.	Tomohiro Ishii, Hironori Shibata, Goro Sasaki, Satoshi Narumi, Sato Takeshi, Mie Hayashi, Naoko Amano, Naoaki Hori, Mikako Inokuchi, Seiji Sato, Tsutomu Ogata, Nobutake Matsuo, Tomonobu Hasegawa. The efficacy of intramuscular testosterone enanthate therapy for micropenis or microphalus is different among hypogonadotropic hypogonadism, hypergonadotropic hypogonadism, and other etiologies. 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 2016(平成28年)11月16日-20日 千代田 (東京)
17.	Shingo Okamoto, Tsutomu Ogata, Hajime Yasuhara, Akimi Okamoto, Masakazu Uejima, Yukako Kurematsu, Tsuyoshi Mashitani, Hitoshi Yoshiji. Genetic Analysis in Japanese Kallmann Syndrome and Idiopathic Hypogonadotropic Hypogonadism. The 15th International Pituitary Congress. 29-30 March 2017 (Florida)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1.	緒方勤: ARTと先天異常症発症の関連について. 第12回日本日本生殖再生医学会特別講演. 2017年3月19日, 東京
2.	緒方勤: 性染色体の最新知識. 第17回東日本ターナー講演会. 2016年4月9日, 東京
3.	緒方勤: ヌーナン症候群とからだの成長. 第3回ヌーナン症候群シンポジウム/第4回コステロ症候群・CFC症候群シンポジウム. 2016年9月22日, 東京
4.	緒方勤: 性分化疾患発症機序: 多面的観点からのアプローチ. 第84回静岡内分泌研究会. 2016年10月6日, 静岡
5.	緒方勤: ヒトインプリンティング疾患発症機序. 内分泌最先端セミナー～内分泌学の現在と未来を語る. 2016年11月5日, 静岡
6.	緒方勤: 社会環境の変化とこどもの健康: 内分泌攪乱環境化学物質を主に. 浜松医科大学公開講座2016: 知ることから始める健康生活. 2016年11月12日, 浜松

2) シンポジウム発表

1.	緒方勤: 先天性内分泌疾患とゲノム構造異常. 第21回小児内分泌専門セミナー. 2016年8月26-28日, 神戸
----	---

3) 座長をした学会名

1.	緒方勤: 第89回日本内分泌学会学術総会. 京都市(京都). 2016(平成28年)4月21日~23日
2.	緒方勤: 第119回日本小児科学会学術集会. 札幌市(北海道). 2016年(平成28年)5月13日~15日
3.	緒方勤: 第50回日本小児内分泌学会学術集会・第9回アジア太平洋小児内分泌学会. 千代田 (東京). 2016(平成28年)11月16日-20日

4. 緒方 勤:第39回日本小児遺伝学会学術集会.新宿 (東京).2016(平成28年12月9日-10日)
5. 福田冬季子、日本小児神経学会、東京、2016.6.3-5
6. 福田冬季子、日本先天代謝異常学会、東京、2016.10.27-29
7. 福田冬季子、日本てんかん学会、静岡 2016.10.7-10.9

4)主催した学会名

1. 緒方 勤:第39回日本小児遺伝学会 東京 2016年12月9-10日 250名

5)役職についている国内学会名とその役割

1. 緒方 勤:日本小児内分泌学会 理事長
日本生殖内分泌学会 理事長
日本ステロイドホルモン学会 理事
日本内分泌学会 理事
日本内分泌学会東海支部 理事
日本小児遺伝学会 理事
日本小児遺伝学会 学会賞選考委員
日本人類遺伝学会 評議員
日本小児科学会 代議員
日本小児科学会 小児慢性特定疾病 委員
日本小児科学会 専門医試験症例評価 委員
日本小児科学会静岡地方会 理事長
日本生殖発生学会 理事
日本アンドロロジー学会 評議員
公益社団法人成長科学協会評議員、専門委員会委員
2. 福田 冬季子:日本小児神経学会 ガイドライン統括委員会委員長
日本小児科学会 代議員、日本小児神経学会 評議員、日本てんかん学会 評議員
3. 藤澤 泰子:日本内分泌学会(評議員)、日本小児内分泌学会(評議員)、日本生殖内分泌学会(監事)

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1 件	2 件

(1)外国の学術雑誌の編集

1. 緒方 勤:Associate Editor, International Journal of Endocrinology, Pubmed 登録あり、IF 有

(2)国内の英文雑誌等の編集

1. 緒方 勤:Associate Editor, Journal of Human Genetics, Pubmed 登録あり、IF 有
2. 緒方 勤:Associate Editor, Clinical Pediatric Endocrinology, Pubmed 登録あり

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1. 緒方 勤:様々な雑誌に数十回(各々を記録していません)
2. 福田 冬季子:Brain and development 4
3. 福田 冬季子:Pediatrics & Therapeutics 1
4. 石川 貴充:BMJ open 1
5. 藤澤 泰子:Endocrine Journal 1
6. 藤澤 泰子:Reproduction, Fertility and Development 1
7. 坂口 公祥:Pediatrics International 1
8. 夏目 統:Journal of Dermatological Science 2

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	1 件
(2)国内共同研究	51 件
(3)学内共同研究	0 件

(1)国際共同研究

1. 坂口 公祥:International Study for Treatment of Standard Risk Childhood Relapsed ALL 2010(IntReALL SR 2010)第一再発小児急性リンパ性白血病標準リスク群に対する第Ⅲ相国際共同臨床研究(IntReALL SR 2010)、相手機関 International BFM study group、期間 平成26年8月～平成31年7月、様式 多施設共同臨床試験の参加施設としての参加、研究成果等現時点では症例登録中なのでなし、当院からも2例登録(国内症例登録数21例)

(2)国内共同研究

1.	坂口 公祥:小児白血病研究会(JACLS)参加施設における小児血液腫瘍性疾患を対象にした前方視的疫学研究
2.	坂口 公祥:8q24転座を有するB前駆細胞型急性リンパ性白血病の病態および治療法に関する後方視的調査研究(本教室の坂口公祥が研究代表者)
3.	坂口 公祥:ALCL99 治療研究(JPLSG ALCL99)
4.	坂口 公祥:小児B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相および第III相臨床試験(JPLSG ALL-B12)
5.	坂口 公祥:急性リンパ性白血病の日本人小児におけるチオプリン等の薬物代謝に関する薬理学的および分子生物学的検討(JPLSG ALL-B12付随研究)
6.	坂口 公祥:第一再発小児急性リンパ性白血病に対するリスク別臨床研究(JPLSG ALL-R08)
7.	坂口 公祥:小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病(Ph+ALL)に対するチロシキナーゼ阻害剤併用化学療法第II相臨床試験(JPLSG ALL-Ph13)
8.	坂口 公祥:小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相臨床試験(JPLSG ALL-T11)
9.	坂口 公祥:小児T細胞性急性リンパ性白血病のQOLアンケート調査(JPLSG ALL-T11付随研究)
10.	坂口 公祥:ダウン症候群に発症した小児急性骨髄性白血病の微小残存病変検索の実施可能性とその有用性を探索するパイロット試験(JPLSG AML-D11)
11.	坂口 公祥:ダウン症候群に合併した急性骨髄性白血病(AML-DS)の新規予後因子探索(JPLSG AML-D11付随研究)
12.	坂口 公祥:小児慢性骨髄性白血病(CML)に対する多施設共同観察研究(JPLSG CML-08)
13.	坂口 公祥:若年性骨髄単球性白血病(JMML)に対する静注用Bu + Flu + L-PAM前処置法による同種造血幹細胞移植第II相臨床試験(JPLSG JMML-11)
14.	坂口 公祥:小児ランゲルハンス細胞組織球症(LCH)に対するリスク別臨床研究(JPLSG LCH-12)
15.	坂口 公祥:小児リンパ芽球性リンパ腫stage I / IIに対する多施設共同後期第II相臨床試験(JPLSG LLB-NHL03)
16.	坂口 公祥:乳児期発症の急性リンパ性白血病に対するリスク層別化治療の有効性に関する多施設共同第II相臨床試験(JPLSG MLL-10)
17.	坂口 公祥:乳児期発症の急性リンパ性白血病に対するリスク層別化治療の有効性に関する多施設共同第II相臨床試験乳児白血病における白血病幹細胞の同定(JPLSG MLL-10付随研究)
18.	坂口 公祥:小児急性骨髄性白血病を対象とした初回寛解導入療法におけるシタラビン投与方法についてランダム化比較検討、および寛解導入後早期の微小残存病変の意義を検討する多施設共同シームレス第II-III相臨床試験(JPLSG AML-12)
19.	坂口 公祥:日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)における小児血液腫瘍性疾患を対象とした前方視的研究(JPLSG CHM-14)
20.	坂口 公祥:小児急性前骨髄球性白血病に対する多施設共同第II相臨床試験(JPLSG AML-P13)
21.	坂口 公祥:小児ホジキンリンパ腫に対するFDG-PET検査による初期治療反応性判定を用いた治療法の効果を確認する第II相試験(JPLSG HL-14)
22.	坂口 公祥:再発および寛解導入不能小児ALLに対する前方視的観察研究および再発および寛解導入不能小児ALL試料を用いた基礎研究(JPLSG ALL-R14)(本教室で中央診断を担当)
23.	坂口 公祥:再発・治療抵抗性リンパ芽球性リンパ腫Stage III/IVに対するDexICE治療の有効性及び安全を検証する多施設共同第II相臨床試験(JPLSG ALB-R13)
24.	坂口 公祥:IntReALL SR 2010 付随研究 再発ALL臨床検体バイオバンク化に関する研究
25.	坂口 公祥:標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同試験(JPLSG ALB-NHL-14)
26.	坂口 公祥:IntReALL SR 2010 付随研究 アスパラギナーゼの薬物動態学的、薬力学的解析に関する研究(本教室の坂口公祥が研究代表者)
27.	坂口 公祥:小児白血病患者における永久歯の形成障害に関する多施設共同研究
28.	坂口 公祥:頭蓋内胚細胞腫瘍における髄液PLAP測定の有用性に関する前方視的研究
29.	坂口 公祥:小児上衣腫に対する術後腫瘍残存程度と組織型によるリスク分類を用いた集学的治療第II相試験(JCCG EPN1501)
30.	坂口 公祥:小児高リスク急性リンパ球性白血病(ALL)に対する寛解導入療法の変更による有害事象を検討する後方視的研究(JACLS HR-02-O&M)
31.	坂口 公祥:髄芽腫に対する新リスク分類を用いた集学的治療のパイロット試験
32.	坂口 公祥:非定型奇形腫瘍/ラプトイド腫瘍に対する髄注併用化学療法と遅延局所放射線治療のパイロット試験
33.	坂口 公祥:小児固形腫瘍観察研究
34.	坂口 公祥:IDRF(Image Defined Risk Factors)に基づき手術時期の決定を行う神経芽腫低リスク群の観察研究(JNBSG 低リスク臨床研究)
35.	坂口 公祥:IDRF(Image Defined Risk Factors)に基づく手術適応時期の決定と、段階的に強度を高める化学療法による、神経芽腫中間リスク群に対する第II相臨床試験(JNBSG 中間リスク臨床研究)
36.	坂口 公祥:高リスク神経芽腫に対する遅延局所療法第II相臨床試験(JNBSG 高リスク臨床研究)
37.	坂口 公祥:オブクローヌス・ミオクローヌス症候群を合併する神経芽腫の臨床像と発生率を検討する後方視的調査研究

38.	坂口 公祥: 高リスク神経芽腫に対するICE療法を含む寛解導入療法とBU+LPAMによる大量化学療法を用い遅延局所療法第Ⅱ相臨床試験(JNBSG JN-H-15)
39.	坂口 公祥: 進行期神経芽腫に対するKIRリガンドミスマッチ同種臍帯血移植の有効性に関する研究
40.	坂口 公祥: 初診時血清診断による神経芽腫の無治療経過観察研究(JNBSG JN-L-16)
41.	坂口 公祥: 小児急性骨髄性白血病(AML)に対する多施設共同試験(AML-05, PO5, DO5)における感染症と支持療法の関連についての後方視的調査研究
42.	坂口 公祥: 初診時に遠隔転移のない肝芽腫患者への有効性と安全性を検討する多施設共同臨床試験(JPLT3-S, JPLT3-I)
43.	坂口 公祥: 横紋筋肉腫低リスクA群患者に対するVAC1.2(ビンクリスチン、アクチノマイシンD、シクロホスファミド1.2g/m ²)/VA療法の有効性及び安全性の評価第Ⅱ相臨床試験(JRS-II LRA)
44.	坂口 公祥: 横紋筋肉腫低リスクB群患者に対するVAC1.2(ビンクリスチン、アクチノマイシンD、シクロホスファミド1.2g/m ²)/VI(ビンクリスチン、イリノテカン)療法の有効性及び安全性の評価第Ⅱ相臨床試験(JRS-II LRB)
45.	坂口 公祥: シスタチンCによる小児腎腫瘍患者の晩期腎障害評価の検討
46.	坂口 公祥: 本邦における両側性腎腫瘍に対する統一プロトコール 腎温存の評価(JWiTS RTBL14)
47.	坂口 公祥: 両側性腎芽腫の遺伝子診断応用のためのプロスペクティブ遺伝子分析研究(JWiTS RTBL14GP)
48.	坂口 公祥: 両側性腎芽腫の遺伝子分析と遺伝相談への応用(JWiTS RTBL14GR2)
49.	坂口 公祥: 初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ相臨床試験
50.	坂口 公祥: 重症および最重症再生不良性貧血患者に対するウサギ抗胸腺細胞グロブリン(サイモグロブリン®)の前方視的ランダム化用量比較多施設共同研究(APBMTAAWG-01)
51.	夏目 統: アレルギーマーチを阻止する乳児アトピー性皮膚炎早期介入研究

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

(3)国内での受賞

1.	緒方 勤: 日本人類遺伝学会学会賞、2016年10月8日
2.	夏目 統: 第13回日本アレルギー学会学術大会賞、2016年6月

12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1.	夏目 統: 2016/12/9 卵アレルギー発症予防研究についてプレリリース。新聞・テレビで取り上げられた。
----	--

13 その他の業績

1.	緒方 勤: 厚労科研費: 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業中間・事後評価委員を務めている
2.	緒方 勤: 日本スポーツ振興センター: 性分化疾病をもつ女性アスリートに対するサポート体制構築について、委員を務めている